

平成27年度 学校評価報告書

学校教育目標		意欲的に学び合い、心豊かでたくましく生き抜く子どもを育てる		重点目標	○ 既習を基に考えを深め合う子どもの育成 ○ 自他を認め合い、共に高め合おうとする子どもの育成							
評価計画				自己評価		学校関係者評価	改善計画					
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)		コメント	次年度における改善策(案)					
重点目標	確かな学力の向上 ○基礎基本の確実な定着 ○伝え合う力の育成 ○校内研修の充実 ○指導形態の工夫	○学力向上プランの計画に基づいた実施と点検(全学級) ○学び方の定着(学習規律, 準備物, ノート指導等) ○書く活動の充実(視写・短作文等のノート指導) ○伝え合う力の充実(ペア, グループ, 全体) ○上官タイムの充実 ○児童の実態に即した対応の充実 ○少人数指導(TT), 個別指導等	○国語, 算数の市販テスト結果のクラス平均80点以上 ○教師の自己評価(4段階3以上) ○教師と児童の自己評価(4段階中3以上) ○教師の自己評価(4段階中3以上) ○上官タイムの計画的実施(週1回) ○教師の自己評価(4段階中3以上)	3 3 4 3 3	○書く活動の視写に継続して取り組んだので、書く早さも速くなり、自分の伸びを知り意欲的に取り組むようになった。 ○学び合いでは、自分では思いつかなかった考えを友だちから聞くことができたことで、自分の考えと比べながら聞くこともできるようになってきた。 ○学び方については、全校で取り組むことができた。 △TTや少人数等の指導形態を工夫・充実させる必要がある。		B	○全般的に、学校の自己評価は4でも良いと思う。 ○書く活動や伝え合う力の育成に継続的に取り組んであり、確かな学力の向上に繋がっていると思う。 ○各種学力調査を総合的に判断すれば、学校の取組の成果は現れていると思う。 ○学校の核となる先生の育成も更に進めて欲しい。	○書く活動をベースに話す・聞く活動を充実させ、一人ひとりの子どもたちが自分の考えを自分の言葉で伝えられるような『学び合い』の授業をめざして、校内研究に取り組んでいく。 ○校内・校外を問わず優れた授業実践を参観したり、各自の授業実践を参観し合ったりすることで、教師一人ひとりの実践力を育てていく。			
	に 関 す る 評 価	豊かな心の育成 ※自他を認め合う ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○読書活動の充実	○道徳の時間の確実な実施 ○気持ちの良い挨拶の徹底 ○読書タイム, 読書月間等を活用した読書の奨励 ○基本的な生活習慣の定着 早寝・早起き・朝ご飯の取組	○標準時数以上の確保(100%) ○教師と児童の自己評価(4段階中3以上) ○読書冊数の前年度よりの増加(前年度 14, 462冊) ○教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	4 4 3 3	○道徳の時間は、確実に実施できている。 △挨拶は良くできているが、時と場所、相手により差が見られる。 ○今後は読書の冊数を増やすより、じっくり読んで読書を楽しむ習慣を付けたい。 ○基本的な生活習慣の定着は、これまで以上に家庭の協力が必要である。		A	○豊かな心の育成や生活習慣の定着は、学校だけではなく家庭の自覚と協力が不可欠だと思う。 ○読書は冊数だけではなく、じっくり読む習慣の定着にも力を入れて欲しい。	○新校では、上官小・大牟田小の子どもたちの良好な人間関係づくりに向け、特別活動を中心に取組を進める。 ○読み聞かせ会等を積極的に取り入れ、読書活動の充実を図る。		
		体 力 向 上 ※ 共 に 高 め 合 う ○ 体 育 科 学 習 の 充 実 ○ 年 間 通 し た 取 組 の 充 実 ○ 日 常 運 動 の 推 進	○新体力テスト結果に基づく指導内容の重点化 ○体育科学習指導法の工夫改善 運動量の確保, 場の設定等 ○わくわくスポーツ, 業間運動等の計画的実施 ○大牟田ストレッチ, 大牟田体力検定の取組の充実 ○外遊びの積極的奨励	○全種目平均以上 ○50m走, 長座体前屈の平均値を前年度よりプラスに ○教師と児童の自己評価(4段階中3以上) ○教師と児童の自己評価(4段階中3以上) ○教師の自己評価(4段階中3以上) ○教師と児童の自己評価(4段階中3以上)	3 3 3 4 4	○新体力テストの結果, 年々向上してきている。 ○体育科学習では運動量の確保を意識し、授業での場の工夫に取り組んだ。 ○わくわくスポーツ・業間運動等は、実施計画に基づき実施できた。 ○休み時間や放課後等, 男女や異学年一緒に仲良く遊ぶ子どもが多く見られる。 ○休日なども, 運動場で沢山の子どもたちが仲良く遊ぶ姿が見られる。		B	○学校の取組と地域のスポーツ活動を通して、体力向上は確実に図られている。 ○先生方の指導の結果, 成果は達成されている。 ○体力は児童の体格が大きく影響しているようだ。 ○地域での外遊びの楽しさを教えるためにも, 地域に外遊びをする安全な場所の確保が必要だと思う。	○体育科学習での, 子どもたちの運動量を確保すると共に, 運動に適した場づくりを工夫する。 ○縦割り活動等を取り入れ, 異学年集団で楽しみながらスポーツに親しみ, 体力向上を図る機会を設定する。 ○大牟田っ子ストレッチや大牟田体力検定などの取組を充実させる。		
			い じ め	いじめを許さない心の育成 ※自他を認め合う心	○いじめ対策の組織的対応 学校生活アンケート, 無記名いじめアンケート等の計画的実施 ○各関係機関と連携した対応 いじめ防止推進委員会等	○気になる回答への教育相談の実施及びその全ての解消 ○教師の自己評価(4段階中3以上)	4 3	○いじめに対して, 組織的・早期対応ができる体制を整え, 継続して取り組むことができている。 ※いじめ防止対策推進委員会等		A	○組織的な対応やお互いに認め合う子ども, いじめを許さない心の育成に取り組まれている結果だと思う。	○新校でも学校・保護者・地域の協力体制を作っていく。 ○地域等からの情報収集の手立てを検討し, より迅速な対応ができるよう工夫していく。
				不登校	共に高め合おうとする心の育成	○不登校傾向児童への組織的対応と情報共有のための生徒指導部会の定例開催 ○各関係機関と連携した対応 SSW, SC, 教育相談室等	○教師の自己評価(4段階中3以上) ○教師の自己評価(4段階中3以上)	4 4	○不登校傾向児童・保護者への対応は, 組織的な対応ができている。 ○保護者・関係機関と連携して取り組み, 不登校傾向児童や課題のある児童への対応は, 組織的に取り組んでいる。		A	○不登校傾向児童に対する迅速で適切な学校の対応が, 子ども・保護者にも浸透してきている。

◇ 評価について

- ・【自己評価】 4: 目標達成(90%以上) 3: ほぼ達成(70%~90%) 2: もう少し(60%~70%) 1: できていない(60%未満)
- ・【学校関係者評価】 A: 自己評価は適切である B: 自己評価はほぼ適切である C: 自己評価はあまり適切でない D: 自己評価は不適切である